

## 令和7年度 GKP 広報大賞 エントリーシート

<b>団体名</b> 神戸市建設局下水道部	<b>団体区分（混成の場合は複数☑）</b> <input checked="" type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> 学校・NPO・個人等
<b>取組名</b> 「下水道が育む水の循環」～震災30年 神戸の水と資源循環の今～	
<b>責任者（実際に広報に取り組んだチームの代表者）</b> 氏 名： 児玉 かな（建設局下水道部長） 所 属：神戸市建設局下水道部 電 話：078-806-8904（下水道部計画課） E-mail：gesui_keikaku@city.kobe.lg.jp	
<b>担当チームの構成</b> 神戸市建設局下水道部計画課・経営管理課（イベント出展、広報、GKP 動画作成）	
<b>取組のポイント</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年には阪神淡路大震災から30年にあたり、震災復興を機に始まった「神戸市における下水道の循環」を紹介する動画を作成。</li> <li>・震災で被災された方々や神戸における循環の取組を創ってきた人々に想いを馳せて、短歌を作り、動画に挿入。</li> <li>・様々なイベント等で動画を流して、取組について広報を行うとともに、職員一人一人が取組の意義や人々の想いを再認識する機会となっている。</li> </ul>	
<b>アピールポイント</b> ○動画「下水道が育む水の循環」 下水の大きな役割は「水と資源の循環」である。 明治以降、神戸の街に上下水道が創設され、人々の生活を支え、水の循環を担ってきた。 そのような中、1995年の阪神淡路大震災によって多くの人々の命が奪われ、また先人たちが創り上げてきた水の循環が破壊された。 震災からの復興過程で、未来へ残す街の姿として「災害に強い下水道」そして「持続可能な都市」が、我々がたどり着いた答えであり、こうべ再生リンの取組はこのような経緯を経て始まった。 今年は震災から30年になる。 震災を機に始まった「新たな水の循環」や「こうべ再生リンの取組」など、本市が取組んできた下水道の循環の歩みについて動画にとりまとめた。 また、亡くなった方や先人達に想いを馳せて作った短歌を最後に挿入した。人達の想いについて、時を経た今も巡り巡って私達は受け継いで、大切に生きているということを表現した「再生と祈り」を詠んだ句である。 （動画及び短歌は下水道部職員が作成）	
<b>要したコスト</b> 動画製作費：0円（本市職員が作成したため）	

ウラ面に続きます

## 取組の概要

本市では、阪神淡路大震災からの復興過程で「災害に強い下水道」、「持続可能な都市」を目指し、下水処理水や汚泥資源の有効利用を進めてきた。

### ○処理水の有効利用

#### ・せせらぎ用水（松本地区）

松本地区は、兵庫区中央部に位置し、かつては木造長屋などの住宅が密集した地区であった。震災において大規模な火災により 80%が焼失し、壊滅的な被害を受けた。復興事業の中で地区の住民から「火事のときに水があったら・・・」とのつぶやきが発端となり、鈴蘭台処理場の高度処理水を活用したせせらぎの整備が実現した。街に彩や潤いを与えるとともに、非常時には防火用水としての利用が可能である。

#### ・豊かな海への貢献（栄養塩類管理運転）

大阪湾をはじめ国内沿岸域では、かつては富栄養化の進行により、赤潮などの被害が多数発生したが、排水規制などにより水質は大きく改善した。一方で、近年のりの色落ちや漁獲量の減少などの課題が生じており、その要因の 1 つとして海藻やプランクトンなど一次生産者の生育に必要な栄養塩類の低下が指摘されている。

本市の垂水処理場は、平成 28 年から能動的運転管理の試行運用を行っており、現在は兵庫県栄養塩類管理計画における栄養塩類増加措置実施者に指定されている。漁業関係者と対話を重ねるとともに、本処理場において放流水の窒素濃度を増加させる運転を行うことにより、豊かな海への貢献を図っている。

### ○下水汚泥資源の有効利用

#### ・こうべ再生リン

本市では、下水汚泥からリン（こうべ再生リン）を回収し、肥料の原料として供給する取組を行っている。

製造された肥料は市内の農地で利用されており、地産地消の資源循環を実現している。取組については、単に肥料の原料としてリンを供給するだけでなく、栽培された野菜や米が最終消費者である市民の食卓や学校給食に利用されるまで、さらに教育に活用されるまでの循環を整備したことが特長である。

#### ・こうべバイオガス

汚泥処理過程で発生する消化ガスを「自動車燃料化」や「発電」に活用し、下水汚泥資源の有効利用を図っている。また、発電した電気を用いて、水の電気分解により水素を作り自動車燃料とする取組も実施している。

## 成果

取組については定着してきており、松本地区のせせらぎについては住民の憩いの場となっている。また、こうべ再生リンについては、近年出荷量が増加してきている。様々なメディアに取り上げられており、リン回収設備の視察も多い。取組に関して市民を対象としたアンケートを実施した結果、大半の方から「SDGs に貢献する良い印象」との回答を得ている。引き続き取組を推進し、取組の輪を広げるとともに資源循環に貢献してまいりたい。

### 【新聞】

- ・令和 7 年 7 月 30 日 日経新聞「神戸市の下水 受け継がれる底力 災害に強く資源循環にも貢献」
- ・令和 7 年 8 月 19 日 読売新聞「汚泥から肥料 桂高生研究」
- ・令和 7 年 11 月 21 日 J-CAST ニュース

「神戸市の独自 SDGs 施策 持続可能な都市づくり「森の未来都市 神戸」、資源循環モデル「こうべ再生リンプロジェクト」の現在地」

### 【テレビ】

- ・令和 7 年 6 月 24 日 テレビ朝日「しあわせのたね」

